

【香南市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

令和3年1月に中央教育審議会から出された『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」では、「個別最適な学び」「協働的な学び」を一体的に充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善を通して、資質・能力の育成していくうえで、ICTの活用は必要不可欠であると述べられており、全ての子供たちが自覚的に、効果的にICTを活用することが求められている。

現在、本市の主な教育課題である「学力向上」と「不登校の改善」の解決に向けたICTの効果的な活用に加え、平成29・30年度告示の学習指導要領に学習の基盤となる資質・能力として位置づけられた「情報活用能力」の育成を通して、VUCAの次代を生きる本市の子供たちに確実に資質・能力を育成し、「愛あふれ 明日を拓く 香南っ子」の実現を目指す。

2. GIGA 第1期の総括

本市は、令和2年度中に児童生徒と教員に対して1人1台タブレット端末、Google for Education のアカウントの配付、及び高速ネットワークの構築等を整備し、周辺機器等も含めたICT環境の整備が完了している。さらに、同年度中にデジタル学習ドリルやデジタル学習支援ツールも整備してきた。ネットワークについては、令和6年度に通信ネットワーク環境の改善の工事を実施した。工事後、文部科学省が作成した「学校のネットワーク改善ガイドブック（令和6年4月）」に記載の「ネットワーク課題把握のフローチャート」に則ってセルフチェックを行った結果、学校規模に応じた推奨帯域を満たしていることを確認した。

また、教育DXを推進していくための基本方針を示した「香南市教育DX推進計画」を策定するとともに、校長会をはじめ研究主任会や情報教育担当者会等でも周知し、取組を進めてきているが、進捗状況については学校間を取組の差が生じてきている。

3. 1人1台端末の利活用方策

「2. GIGA 第1期の総括」でも記載した「香南市教育DX推進計画」に基づき、令和7年度からは「小・中学校教育DX推進事業」を展開し、学習者主体の授業づくり（授業DX）、教員の働き方改革（校務DX）を一体的に推進していく。今後は学校間で取組の情報交換を行い、その差を抑制するよう新たに教育DX担当者会を開催し、本市の均質的な推進につなげていく。

（1）1人1台端末の積極的な活用に向けて

高知県や本市が実施する研修会に参加し、伝達講習・演習を行うよう徹底し、教員のICT活用能力の育成を図る。また、ICT支援員を雇用するとともに、教育委員会の指導主事や教育研究所の研究員が、各学校の課題や要望に応じて実践的な支援を図るようにする。各種調査結果を踏まえ、

適時学校の進捗状況を定期的に確認し、具体的な取組につなげていく。

（２）個別最適・協働的な学びの充実に向けて

デジタル学習基盤を効果的に活用し、探究的な学習のプロセスを踏まえ、「児童生徒が問いや課題をもち、自分で調べ、多様な他者と協働しながら考えをまとめ、表現する授業づくり」「学習者主体の授業づくり」の実現に向け、各種研修会を実施するとともに、各学校の好事例を共有するなどして、取組を推進していく。本市が導入しているデジタル AI 学習ドリルを活用して、児童生徒が自分の理解度や進度に合わせて学習に取り組める環境を構築し、教員が学習データを活用しながら、児童生徒の状況に応じたきめ細やかな指導支援につなげるようにしていく。

（３）全ての児童生徒への学びの保障のために

不登校児童生徒や日本語指導が必要な児童生徒、様々な背景をもつ児童生徒など特別な支援や配慮が必要な児童生徒に対して、教育支援センターや各家庭と連携ながら、１人１台端末を活用した学習機会を確保し、支援につなげていく。